四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol 8

「先人に学び　未来につなぐ」

愛媛県　四国中央市長

井原（いはら）　巧（たくみ）

四国中央市は、愛媛県の東端部に位置し、昨年4月に川之江市、伊予三島市、土居町、新宮村の合併により新しく誕生しました。当地域は、昔から和紙の生産が盛んで、市域の約73%、32,600haという広大な森林と、その山間部にある銅山川の豊かな水によって、地場産業である製紙業が大きな発展を遂げてまいりました。

製紙業は、俗に「紙1トンに水100トン」と形容されるように、大量の水を消費する用水型産業の代表格でありますが、当地域は平野部が狭小な上、小河川で急勾配であるなど、たびたび水不足に悩まされる地域でありました。

そんなハンディキャップを、私たち先人の地域の発展を思う強い気持ちとたゆまぬ努力により、現在では、柳瀬ダム、新宮ダム、富郷ダムの3つのダムが造られ、今夏のような渇水に対しても、取水制限があるものの、断水等の心配のない水に恵まれた地域となりました。

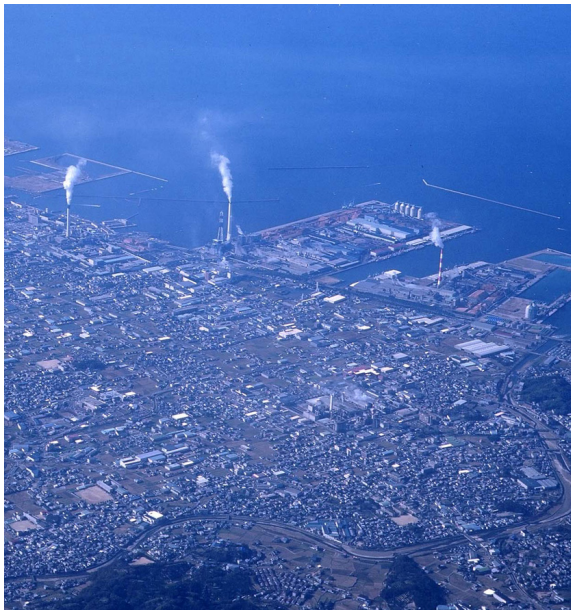
古来より、「水を治める者は天下を治める」と言われますが、正にこの地域においては、全国的にも稀な3つのダム群により水を治め、それを利用することにより四国最大級の工業のまちとなり、日本一の紙のまちとなったのであります。

これらの発展がもたらされたのは、早くからダムの必要性を痛感し、事業完遂に向けて全身全霊をダム建設に傾けた先人の先見の明と、血の滲むような努力の賜物に他ならず、今日まで住民の生命と地域の発展を支えてきたダムの計り知れない功績に、改めて感謝申し上げたいと思います。

現在、当市においては、昨年度の未曾有の台風災害や国の三位一体の改革、また合併直後の肥大化した職員数等により、これまでにない厳しい財政運営を強いられています。

しかし、悲観ばかりするのではなく、現在の厳しい状況を認識し、行財政改革を断行したところこそが、激動の地方分権時代を生き残り、発展への展望が開かれていくものと信じています。ダム建設を成し遂げた先人の尊い教えに習い、私たちの子どもや孫たちがより豊かな生活が送れるよう未来を見据えたまちづくりに取り組んでまいりたいと思います。

富郷ダム



産業集積地